〈報告〉①岩手より

「震災の体験と学んだことを伝えたい」その願いをどう共有するか

岩手県立大槌高等学校

教員　佐藤　諒　さん

これからの災害教育について

岩手県立大槌高等学校　佐藤　諒

目次

①自己紹介

②大槌高校の取り組み紹介＆そこから得たもの

③取り組みの課題と今後の抱負

④「災害に向き合う教育の未来」について

①自己紹介

★名前：佐藤　諒

★年齢：30歳（震災当時16歳・高校１年生）

★出身：岩手県北上市

★経歴：盛岡南高校（５年）→大槌高校（２年目）

★震災について：高校生の時「全国高校生アスリート作文コンテスト」で全国高体連会長賞を受賞

自分自身の作文を用いて震災について伝える授業を実施　　etc…

②大槌高校の取り組み紹介
＆
そこから得たもの

大槌高校の取り組み

- １学年で震災学習を実施
  - 事前学習の後、陸前高田・南三陸・大川小学校を訪問
  - 大川小学校では語り部の方から話を聞き、感じたことなどを共有
- 復興研究会の活動
  - 小学生や中学生に対して高校生が震災について伝える活動
  - 高校生が考える震災伝承とは何か
- 生徒の活動（全国マイプロジェクト、進路活動等）
  - 高校生世代が担う震災伝承とは何か、生成ＡＩを用いた震災伝承
  - 高校生が企画・運営する避難訓練の実施

～震災学習～

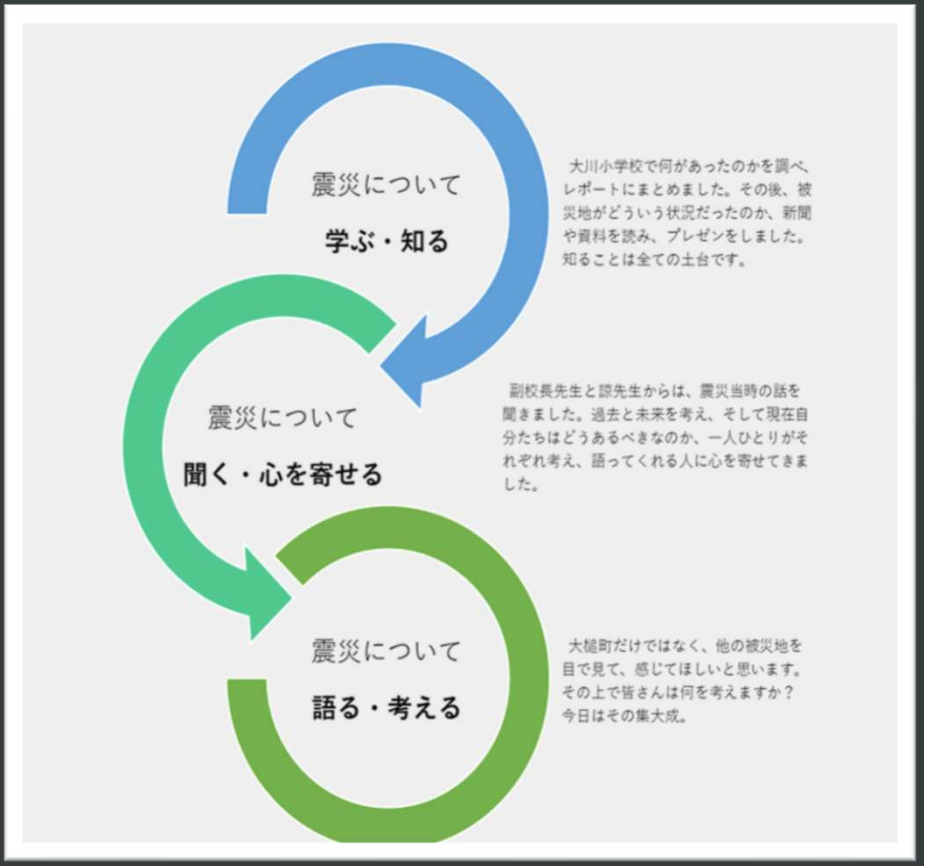
生徒の感想（抜粋）

・実際に訪れてみて、さまざまな感情が込み上げてきた。

・これから伝承していくには、大川小学校のように今ある建物を少しでも残し、これからの子どもたちに教えていくことが大切。

・「過去」を知ることでこれから自分たちが何を伝えていくべきなのか考えることができた。

・伝承だけでなく、同じことが繰り返されないよう避難の仕方など防災意識を高めていく必要がある。



震災学習から得たもの

・生徒の感想から聞いて・見て終わりではなく、

「自分の中にどう落とし込むか」

を考えさせることの重要性を再認識

大槌高校の取り組み

- １学年で震災学習を実施
  - 事前学習の後、陸前高田・南三陸・大川小学校を訪問
  - 大川小学校では語り部の方から話を聞き、感じたことなどを共有
- 復興研究会の活動
  - 小学生や中学生に対して高校生が震災について伝える活動
  - 高校生が考える震災伝承とは何か
- 生徒の活動（全国マイプロジェクト、進路活動等）
  - 高校生世代が担う震災伝承とは何か、生成ＡＩを用いた震災伝承
  - 高校生が企画・運営する避難訓練の実施

～復興研究会の活動～

小学生、中学生に対して高校生が震災について伝えるときに意識したことは、

・どう「自分事」として考えさせるか

・「知らない」人が、「知る」ことだけが伝承ではない

・地域の大人から聞いたエピソードで心に残ったものを各々が考えて伝える。

・受けて終わりではなく「意見交流」する場があることの意味

・記憶のない世代が行動することで「人の寿命を超える伝承」になる

復興研究会の活動から得たもの

・震災伝承とは、

「自分事として捉え、どのように伝えるのかを考える」こと

・人の寿命を超える伝承には

「震災を知らない世代の参加が必要不可欠」

大槌高校の取り組み

- １学年で震災学習を実施
  - 事前学習の後、陸前高田・南三陸・大川小学校を訪問
  - 大川小学校では語り部の方から話を聞き、感じたことなどを共有
- 復興研究会の活動
  - 小学生や中学生に対して高校生が震災について伝える活動
  - 高校生が考える震災伝承とは何か
- 生徒の活動（全国マイプロジェクト、進路活動等）
  - 高校生世代が担う震災伝承とは何か、生成ＡＩを用いた震災伝承
  - 高校生が企画・運営する避難訓練の実施

～生徒の活動～

生徒が震災伝承と向き合っていく中で、

「自分たちが経験していないことを語るのは限界があるのでは？」

と思い、自分事に落とし込むために“生成ＡＩ”を用いて

震災体験を作成し、実際に被災した人と語り合う場を

企画・運営

生成AIで実際に作るためのプロンプト

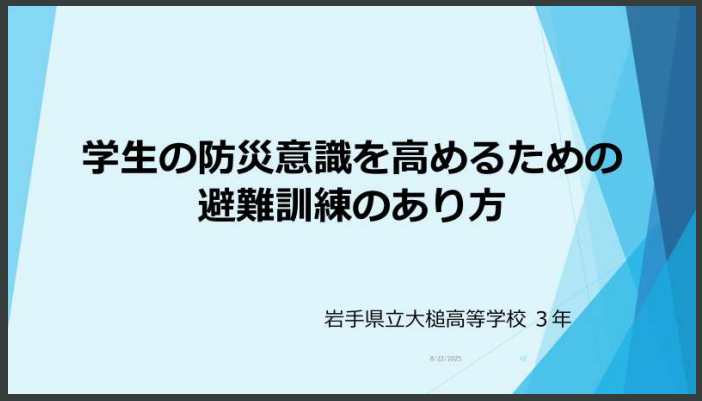
私は**岩手県大槌町**で生まれた**３歳**の女の子です。名前は○○○○です。兄は**４歳**で名前は△です。親の名前は母は□□という名前で、妊娠しています。父の名前は▽▽で、出張で宮城県の仙台市にいます。祖母の名前は☆☆で、足が不自由です。祖母はいつも私と兄を迎えに来ていた。
３月１１日震災が発生し私と兄は保育園の先生と高台に避難しました。
祖母は私と兄を迎えに行く途中で地震が発生し足が悪いため逃げ遅れてしまった。そこで津波が発生し、祖母は津波にのまれて亡くなってしまった。
そこで起きた葛藤、犠牲をテーマに1500字程度で作文を作成してください。母は今でも足の悪い祖母に私たちの迎えに行かせたことを後悔をしていて、それを乗り越えられていないという状況です。

生徒の活動から得たもの

・いつもの避難訓練は「○月△日□校時に避難訓練を行います。」

のように詳細が周知されているが、マンネリ化していると感じていた。

そこで・・・



03 全校生徒に予告した内容（掲示して告知）

今週7月14日（月）～18日（金）のどこかのタイミングで、
いつもと違った形式の避難訓練が行われます。
授業中かもしれないし、休み時間中かもしれません。

また、当日は、避難中にけが人や体調不良者が出たり、
校舎内で通れない場所があったりするかもしれません。
自分たちで最適な行動を考え、本番を想定した避難を
してみてください。

生徒の活動から得たもの

・生成AIを活用することで、

「被災者の気持ちに寄り添い、あの日あの時に

自分自身を投影することができる」可能性を感じた

・防災意識を高めるためには、

「自分自身が主体となって行動すること」

「自助の上に共助があること」をよく理解できた

③取り組みの課題と今後の抱負

取り組みの課題

- 学校だけの活動に留まらず、町の人たちと一緒に震災と向き合うためにはどのように働きかけていくべきなのか。
- 学校の取り組みが継続して行われるためには、何らかの形で残していく必要がある。その方法や担当をどうするか。
- 実施していることに満足せず、疑問を持ち続けることの難しさ。

今後の抱負

- 自分自身がどのように生徒の活動に関わっていくのか考え続けたい。
- 被災地の学校に勤務しているからこそ学べることが多くある。次の勤務校でも生かせるようにしたい。
- 寿命を超える伝承の在り方について模索していきたい。

④「災害に向き合う教育の未来」について

災害に向き合う教育の未来とは

- 震災学習の価値と在り方を伝えること
- 日本全国が被災地という考え方を広めること
- 伝承は変容することを理解し、次世代が自分事として捉え、紡いでいくこと